

将来像の実現に向けた新たな視点

将来像の実現に向けては、「社会資本整備を取り巻く変化の見通し」とともに「ぐんま5つのゼロ宣言」や「群馬・気象災害非常事態宣言」、「SDGs※」などの本県の現状を踏まえ重点的に取り組むべき新たな視点も取り込みながら、社会資本整備を進めていきます。

1 2050年に向けた「5つのゼロ宣言」・「群馬・気象災害非常事態宣言」

2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」における自然災害による死者「ゼロ」、「群馬・気象災害非常事態宣言」を踏まえ、気象災害の新たな脅威にしっかりと対応できる「災害レジリエンスNo.1」の実現に向け、ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策をこれまで以上に一層加速させます。

2050年に向けた『ぐんま5つのゼロ宣言』

2050年に向け群馬県は『ぐんま5つのゼロ』を宣言します!!

気候変動の影響によると考えられる自然災害により、毎年大きな被害が発生し、本県も例外ではなく、温暖化の脅威は、私たちにとって遠い世界のことでなく、現実の問題である。

国際社会では、地球温暖化対策に関する枠組みとしてパリ協定が締結され、日本も目標を定めて温室効果ガスの削減に取り組んでいる。

エネルギーを定めて、温室効果ガス削減のほか、災害による停電リスクへの対応、地域からの富（電気代）の流出が課題になっている。

また、生態系に深刻な被害をもたらす海洋プラスチックごみをなくすため、水資源ぐんまとしての役割を果たすことが求められている。

さらに、日本では毎日1人1杯のご飯に相当する食料が廃棄されているにもかかわらず、毎日の食卓にも事欠く多くの人がいる。

群馬県では、これらの課題を2050年までに解決し、災害に強く、持続可能な社会を構築するとともに、県民の幸福度を向上させるため、ここに「ぐんま5つのゼロ宣言」(2050宣言)をする。

2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」

- 宣言1 自然災害による死者「ゼロ」**
 県土の強靱化とともに、県民の防災意識を高め、自然災害による死者をゼロにする
 【主な取組】
 ・「災害に強い県土づくり」に向け、ソフト・ハードの両面から取組を徹底
 ・県民の「自らの命は自らが守る」という防災意識の徹底 など
- 宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」**
 日照時間の長さや豊富な水資源・森林資源など本県の恵まれた再生可能エネルギー資源を最大限に活用して温室効果ガスの排出実質ゼロにする
 【主な取組】
 ・「ぐんま再生可能エネルギープロジェクト」の推進
 (再生可能エネルギーのフル活用、エネルギーの自立・分散化(地産地消)の推進、水素社会の実現)
 ・省エネ・節電対策のさらなる推進 など
- 宣言3 災害時の停電「ゼロ」**
 エネルギーの自立・分散化(地産地消)により、災害時にも電力供給を継続するため、さらに、地域外への富(電気代)の流出をなくし、地域内で資金循環させる。
 【主な取組】
 ・「ぐんま再生可能エネルギープロジェクト」の推進 など
- 宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」**
 環境中に排出されるプラスチックごみをなくす
 【主な取組】
 ・プラスチックのライフサイクル全体を通じた資源循環の構築
 ・ワンウェイプラスチックの使用削減、代替素材への転換促進 など
- 宣言5 食品ロス「ゼロ」**
 「MOTTAINAI」(もったいない)の心で食品ロスをなくす
 【主な取組】
 ・食品ロス削減「MOTTAINAI運動」の展開
 ・食品製造業や流通小売業等の食品ロスゼロの推進
 ・フードバンク活動や子ども食堂の支援 など

群馬・気象災害非常事態宣言

群馬・気象災害非常事態宣言

近年、気候変動の影響等により、日本の気象災害が激甚化、頻発化している。過去に経験したことのない大型の台風や豪雨が毎年のように発生し、日本列島全体に甚大な被害をもたらしている。日本の気象災害のレベルが、新たな段階に入ったことは間違いない。

例えば令和元年10月、台風第19号の際には、本県でも県内観測史上最大の雨量を記録した。その結果、水害、土砂災害等で、かけがえのない県民の生命や財産が失われた。今後は、この規模の気象災害が毎年のように起こることを想定しつつ、あらゆる対策を講じていく必要がある。

こうした事態を受け、気象災害の新たな脅威に対応するため、ここに「群馬・気象災害非常事態」を宣言する。

本県の特徴として、自然災害が少ないことが挙げられる。事実、震度4以上の地震の頻度は関東甲信越地域で最も低く、水害と土砂災害による死者数も全国で最も低いレベルにある。さらに言うと、日照時間が長く、水資源・森林資源も豊富で水力発電量が全国トップクラスを維持するなど、自然条件に恵まれている県でもある。

本県では気象災害非常事態宣言と合わせ、「ぐんま5つのゼロ宣言」(2050宣言)も行った。5つのゼロ宣言では、①自然災害による死者ゼロ、②温室効果ガス排出量ゼロ、③災害時の停電ゼロ、④プラスチックごみゼロ、⑤食品ロスゼロ、を目標に掲げている。

今回の気象災害非常事態宣言を踏まえ、上述した群馬県の強みを最大限に活用しつつ、災害に強く、持続可能な群馬県を構築するため、ハード・ソフト両面の防災・減災対策を強力かつ集中的に推進する。具体的には「ぐんまNo.1レジリエンス強化実現計画」を策定し、県土強靱化を進めると同時に、「自らの命は自らが守る」という県民の防災意識を醸成する。

都道府県初の気象災害非常事態宣言、5つのゼロ宣言を契機に、災害へのレジリエンスNo.1の群馬県、すなわち、安全・安心で、かつ安定した経済活動が出来る群馬県の実現を目指していく。

令和元年12月27日
 群馬県知事 山本一太

2 ぐんまSDGsイニシアティブ ～SDGs先進県に向けた決意宣言～

持続可能なまちづくりの実現に向け、県土整備プランに掲げた多様な政策や施策を、県民の皆さんをはじめとする地域づくりを担う多様な主体と連携しながら、SDGsの達成に向けて着実に推進していきます。

ぐんまSDGsイニシアティブ ～SDGs先進県に向けた決意宣言～

SDGsの理念は、山本県政の目標である「県民の幸福度向上」を目指すことと軌を一にするものです。

また、SDGsは単なるコンセプトではなく、既に世界の潮流であり、民間企業でも、SDGsの理念に基づくESG経営※に取り組むことが一般的になってきています。

そこで、人口減少・超高齢化など社会的課題の解決と持続可能な地域づくりに向けて、市町村、企業、大学、NPO、県民等と一体となってSDGsを推進するため、「ぐんまSDGsイニシアティブ」を発信します。

ぐんまSDGsイニシアティブ ～SDGs先進県に向けた決意宣言～

群馬県は、人口減少・超高齢化など社会的課題の解決と持続可能な地域づくりに向けて、官民連携を進め、SDGsを推進します。

①「誰一人取り残さない」というSDGsの理念のもと、女性、高齢者、障害者、外国人など、年齢、障害の有無や国籍などを問わず、誰もが居場所と役割を持ち活躍できる持続可能な地域社会の実現を目指します。

②県民をはじめ、市町村、企業、大学及びNPOなどのパートナーシップにより、県全体で持続可能な社会の実現に向けて取り組みます。

【具体的な取組】
 ・次期総合計画の策定にあたっては、SDGsの理念を反映させるとともに、SDGsの17のゴールに各部門の主要事業を位置づけします。
 ・県として、SDGsの達成に向けた取組を推進し、内閣府が公算する2020年度の「SDGs実装都市」「自治体SDGsモデル事業」への認定を目指します。
 ・県全体でSDGsの推進に取り組み、市町村及び中小企業を対象としたセミナーを開催します。

※用語の意味については、P144～P151の用語解説をご覧ください。